

東白川村 美しい村づくり 委員会

第58回

○場 所：五加交流サロンほほえみ

○時 期：令和3年10月27日 19:00～21:00

○参加者：委員5名 一般8名 行政担当3名 ゲストスピーカー2名

○新型コロナ対策を実施して開催しました。（マスク、手消毒、体温チェック、常時換気）

第1 開会

美しい村づくり委員会は毎月1回、地域づくりについて対話を重ね、今回58回目を迎えました。

今年度の委員会は「学びあい」をテーマに活動しています。第1回は「茶産業振興施策について」、第2回は「SDGsと持続可能な地域づくり」、そして、今回第3回は「地域のデザイン・地域の編集」についてです。

ゲストスピーカーは、株式会社リトルクリエイティブセンター代表の今尾真也さんと編集部の杉田映理子さんです。株式会社リトルクリエイティブセンターさんは、デザイン会社で、お店や商品のロゴ、パッケージなどのグラフィックデザインやブランディングをはじめ、さまざまなメディアの編集や発信、プロダクトの企画制作、店舗運営、ときには、まちや人を巻き込んだイベントのプロデュースまで、事業は多岐にわたっています。また、県内自治体と連携協定を結び活動していて、地域の魅力や地域の課題についても活動されています。株式会社リトルクリエイティブセンターさんの事業紹介をとおして、「持続可能な村づくり」を学び合いましょう。キーワードは、いっしょに考え、いっしょにつくる。（ファシリ：村雲和裕）

第2 村長あいさつ

- 1 地域の課題また過疎地の課題として、本村も共通して人口減少に伴う様々な課題があります。空き家の問題や子どもの人数減少による学校教育の問題です。本日、お二人の赤ちゃんを抱かせていただく機会がありましたが、東白川村は本年度の出生は4人になる予定です。そして亡くられる方は40名程になります。このような人口減少の実態においても、村民の方には、東白川村で価値を見つけて欲しいと思います。本村では新しい移住定住施策の効果で移住者が増加しています。その方達にも、東白川村で新しい価値を見つけて欲しいです。

東白川村は「日本で最も美しい村」連合に加盟し、4つのテーマに取り組んでいます。まず、景観保全と経済的自立です。東白川村の特徴的景観を作り出しているのは、東濃ひのきと白川茶です。経済的自立と景観保全は密接した関係です。ですから、景観保全はもとより、地域の仕事の創出も重要課題と捉えて取り組んでいます。また、この委員会の活動のように住民の自主的な活動にも取り組んでいます。最後にリーダーシップですが、首長である私の思い、また今後のビジョンを明確にして、持続可能な美しい村づくりに取り組んでいます。本日は前回に引き続き、白川町の方々に参加していただいています。さらに引き続き、東白川村と白川町の連携を行っていきましょう。

第3 村の移住定住の状況について

最近の空き家バンクの状況について報告します。東白川村の移住定住事業で最も特徴的であるのが、物件の寄附を受け付けて、屋内荷物の片付けも請け負う仕組みです。このサービスも含めた総合的な移住定住事業を開始し、多くの移住者の方が村に住まわれています。この寄附物件を8月に新しく2件公開しましたが、緊急事態宣言のため見学は約1ヵ月半ストップしていました。寄附物件を掲載するようになり、問合せ数が増加し、緊急事態宣言中も数十件の問合せがあり、見学予約も20件以上になります。問合せの方は、遠くは東京、近くは愛知県が最も多くなっています。

また、新しい試みとして、この委員会で意見が出たことを受け、9月の広報にて村内在住者優先に物件情報を公開しました。見学も実施し、契約に向け進んでいる状況です。長い期間契約に至らない物件2件についても前向きな動きがありました。そして、最近、村にYouTuber（ユーチューバー）の方が移住されました。再生回数が多く、村での生活もアップされています。YouTube（ユーチューブ）を見て見学にこられた方もみえます。また、村の年配の方もYouTuber（ユーチューバー）移住者のことを知っているようで話題になっています。（地域振興課 高野）

第4 第3回学びあい会「地域のデザイン・地域の編集」

1 取り組み紹介

紹介者は株式会社リトルクリエイティブセンター代表の今尾さんと編集部
の杉田さんです。

2 紹介内容

（1）自己紹介

2007年に岐阜市やながせ商店街で「アラスカ文具」を創業。商店街活性化についてデザインを中心に活動し、現在は各務原市に事務所を置く。（今尾さん）

5年前に大卒で就職をきっかけに、長野から岐阜市へ移住。編集の仕事を中心に活動。生まれは東京都。（杉田さん）

（2）事業の種類と説明

社員23人。20代後半から30代前半が多く、圧倒的に女性が多いです。採用時は男女募集していますが、応募の時点で女性が多いです。法人化は2014年。拠点は岐阜駅、各務原市、東京都、白川村の4箇所。配布してあります、会社概要パンフレットにそって事業紹介をいたします。

【事業分野一覧】

○グラフィック：ロゴ、フライヤー、ショップカード制作。

○プロダクト：商品、パッケージ制作。

- ブランディング：企業、店舗、商品のブランディング。
- プロジェクト：イベント企画運営、グラフィックデザイン。
- エディトリアル：編集、ライティング。
- ウェブ：ウェブサイト制作。
- メディア：メディア運営、出版。
- ショップ：店舗運営、オリジナル商品企画開発。
- アンテナショップ：アンテナショップ運営。

【さかだちブックス】

ローカルメディア・出版社。さまざまなカタチで情報発信していて、地域の魅力や人やモノやコトを紹介。親しみやすさを意識している。

【アラスカ文具】

オリジナル文具をデザインし販売。リトルの原点。ここから様々な活動へ波及していく。

【岐阜ホール】

岐阜県を一步出ると、岐阜の認知度が全国的にあまりに低いので、岐阜を全国発信することを目的に、2年前の夏に東京上野にアンテナショップをオープン。

【やながせ倉庫団地】

岐阜市柳ヶ瀬商店街にあるシェアビル「やながせ倉庫」の一角を委託販売スペースとして共同運営。

【THE GIFTS SHOP】

店舗運営の県委託事業。物販だけでなくストーリー紹介やフェア企画など、観光情報発信基地としても機能。

【サンデービルディングマーケット】

岐阜市柳ヶ瀬商店街で開催されるマーケット。イベントの立ち上げから、ロゴやフライヤーなどグラフィックデザインも手がけた。

【喫茶室山脈】店舗ブランディング。1年かけて、店主の漠然としたイメージ状態から対話を重ね構築した。長いお付き合いのお客が多い。かき

氷屋さんは2週間ほどで開店した例もあり、いろんなケースに柔軟に対応。

【山県ツアーズ 】

既存の企画に対して、どう発信していくかを一緒に考えカタチにした。特にウェブ構築の案件が多い。

【自治体】

紙媒体作成が多い。最近の例は、八百津のふるさと納税パンフレット、本巢市の人・モノ・コトを発信する紙媒体、岐阜広域連携のパンフレット。取材、撮影、編集の全てを自社で行えるので、自治体と一緒に考えながらカタチにしている。

【岐阜聖徳学園大学】

ブランディングの事例。グッズを作りたいとの依頼から、対話を重ね、課題解決方法として新しくコミュニケーションロゴの制作を提案。小さい会社ならではの、顔が見える距離で、時間をかけ「一緒に考え一緒につくる」姿勢で取り組んだ。そういった案件が多い。また、大学発行の「GIFU LIFE」を制作。岐阜に住みたいから岐阜の大学を選ぶ！もあっていい！とのテーマで、岐阜の情報を掲載。

【マーケット日和】

各務原市の官民協働事業の事例。当時の既存イベントのリニューアルを図るため、行政6名と民間6名ほどで多くの会議を重ね、イベントを企画運営。メンバーの入れ替わりを行いながら、毎年新しい取り組みを実施。行政は、市民からの新しい意見をまとめる役割。開催場所である公園のキャパオーバーという課題とコロナ禍を受け、去年はオンライン形式で開催。今年度もひきつづき同じ課題のもと、議論を重ねて、公園内では物販をし、町の既存の飲食店がフード提供という新しい形式でチャレンジする。これらの活動から、個人店や企業からなる「(一社)かかみがはら暮らし委員会」が発足。カフェ、イベント、新しいコミュニティが発足する活動を展開中。

【関の工場参観日】

行政とのプロジェクト事例。既存のイベントにジョイン。行政が、「外に発信する力の大切さ」を認識し、リトルに依頼された。報告だけの会議から意見がでる会議に変化。プロジェクトスタッフが変化・成長に繋がるような「過程」を大切にしている。

【ピックアップ事例】

白川村との事業の「飛騨日日新聞」について。

白川村から、シティプロモーションとシビックプライドについて相談を受けたことから、半年間会議をかさね「新聞」という手法をとることになる。行政との対話を重ねていくと、「村の豊かさは日常の暮らしにある」ということを知り、その日常が人口減少で崩れていくことから、シビックプライドの醸成にしばられた。

「村はコミュニティの小ささが魅力」

→「村全体が家族」

→「村の人しか登場しない新聞」

→「知っている人しか載らない新聞」となる。

初めは、WEB 展開を中心に実施したが、紙媒体中心に移行した。小学生と中学生の授業に「村民学」があり、そこでリトルは先生も行い、中学生と新聞作りを実施している。行政が目標とする「移住者増」と、移住者増による「結いの精神」が崩れるジレンマに直面しているが、リトルは「新聞社」という第三者の立ち位置で、村の方からの信用を醸成し、リトルが紹介する方（移住者）だったら大丈夫だよね。」となるよう目指している。難しい課題なので、できるかぎりトライ＆エラーを行っている。

Q)白川村の移住者の状況は？（高野）

A)商売をしたい移住希望者は多いですが、物件がない状況です。U ターンだったら実家があるので移住できますが。最近、信頼できる方だったら物件を貸す方向に変化しています。

【TOFU マガジン】

県外に岐阜県の魅力を発信するフリーペーパー。毎回、県内自治体を紹介している。東白川村は掲載済み。

3 質疑応答

(Q1) 広告やマスメディアの仕事とは違う印象を受けました。特に営業しない中、良い案件がくるのはなぜでしょうか？

(A1) 営業は苦手なので、営業職はないです。お金を中心に考えず、「こうなったら面白い！」を中心に活動しています。また、売り込まれるデザインより、あのデザインいいなーって思われるほうが良いですよ。会社の強みはないですが、あえていうなら地域の食堂に近いと思います。(尖りはないが、ある程度メニューがある。)相手の困りごとをする、相手のコミュニティを崩さずにリトルができることを意識してきました。(今尾さん)

(Q2) 自治体の相談内容の傾向は？漠然とした相談内容もありますか。

(A2) 具体的な相談内容が多く、内容は様々です。

(Q3) 相談件数がグンと伸びた時期はありますか？

(A3) 岐阜ホールができてからです。あと、もちろん、チラシ等のグラフィック注文も多いです。

(Q4) リトルのこれからの目標やゴールは？

(A4) 実は現状で、満足しています。「人に喜んでもらう」ことに対してがんばっていきます。(今尾さん)

県外の仕事を広げて行きたいです。また、今後のことが決まってないことが楽しいです。今まで、リトルでは想像のつかないことが起きてきたので。(杉田さん)

(Q5) 紙媒体の未来の可能性は？

(A5) 白川村の事業で気づいたのですが、紙(新聞)は情報ではなくモノになっていると。仕送りなどと一緒に新聞を送ってくれたりしていて、それって、スゴイ関係性だなーと感じました。なので、手法として紙は有り続けると思います。(今尾さん)

(Q6) 白川村の飛騨日日新聞の効果の予想内と予想外を教えてください。

(A6) 「日日さん」と村の方に呼ばれていて、発刊して1年もたっていない中、村の方への浸透の速さにびっくりしました。また、取材は迷惑かなあと心配しましたが、取材後にお礼を頂いています。「あの子、今どうしてる？」の取材を通して、白川村の子達が、みんな優しくてしっかりして本当にいい子だと感じています。役場の方が心配しているより、白川村のことを想っています。ただ、その気持ちが行動に変わるための「おもしろい」が村にあるような仕組みが、これから必要だと考えています。(杉田さん)

第三者だからできることを実感しています。これからも、よそ者のスタンスをとりつつ取り組んでいきます。(今尾さん)

Q7) チーム力のコツや普段のアンテナのはりかたを教えてください。

A7) チームについては、ていねいな説明を心がけています。また、「こうして下さい。」より、「どう思う?」「一緒に考える」接し方をしています。フラットなチームです。(杉田さん)

プライベートは地味です。(笑い)

仕事とプライベートが分かれていないかも。ネットで見た情報は、直接いって見るようにしています。(今尾さん)

良い! っていうデザインは見るようにしています。あと、会社でそういうデザインについてコミュニケーションで共有しています。(杉田さん)

Q8) 岐阜の今! ってありますか。

A8) 岐阜ホールの立ち上げクラウドファンディングをおこなったとき、クラファン事業者さんから「岐阜のみなさん、熱いですねー!」と言われました。岐阜県は人のつながりが強いと思います。各市町村さんは「オリジナル」を模索していますが、ずばり「人」がオリジナルです! 「人が全て!」だと思います。たとえば、各務原市は何もないんですが、「おもしろい人が集まれば文化が生まれる。」という想いで活動し

ています。(今尾さん)

各地域の悩みは似ていますが、同じ手法をスライドしても解決できないですね。人が違いますから。(杉田さん)

対話を重ねると違いが見えてくるからこそ、しっかり話し合いを続けていくことを心がけています。地域を人目線でみていますね。あと、いい人が多いです。(今尾さん)

Q9) 入社面接で必ず聞くことはありますか。

A9) その人のマイナス点を聞いています。社内で各々のマイナスをチーム補完できるように選んでいます。(今尾さん)

第5 閉会

【次 回】 11月22日 19時から21時 場所(五加交流サロンほほえみ)

テーマ「関係人口について」

第4回学びあい会は「関係人口について」です。NPO 法人 G-net 「休眠預金を活用した新型コロナウイルス対応緊急支援事業」を活用した、東白川村ふるさと納税 PR について、活動した大学生2名からの報告を中心に行います





以上